

高松商工会議所

業種別業界景気動向調査結果

平成29年度 第4四半期（平成30年1月～3月期）調査

概要

1. 調査の目的 四半期ごとに調査を行い、短期的な景気動向を把握する。
2. 調査基準日 平成30年3月1日
3. 調査対象 当所管内の中小企業等より145社を抽出。
4. 回答企業数 142社（回答率97.9%）

業種別内訳	製造業	28社	建設業	21社
	卸売業	14社	小売業	39社
	サービス業	26社	その他	14社

規模別内訳	大企業	1社	中小企業	132社
	業界団体	9団体		

*期間表記について

- 「今 期」：平成30年1月から3月まで
「前年同期」：平成29年1月から3月まで
「前 期」：平成29年10月から12月まで
「来 期」：平成30年4月から6月まで

*D I 値（景気動向指数）について

D I 値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す指数である。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$D I = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

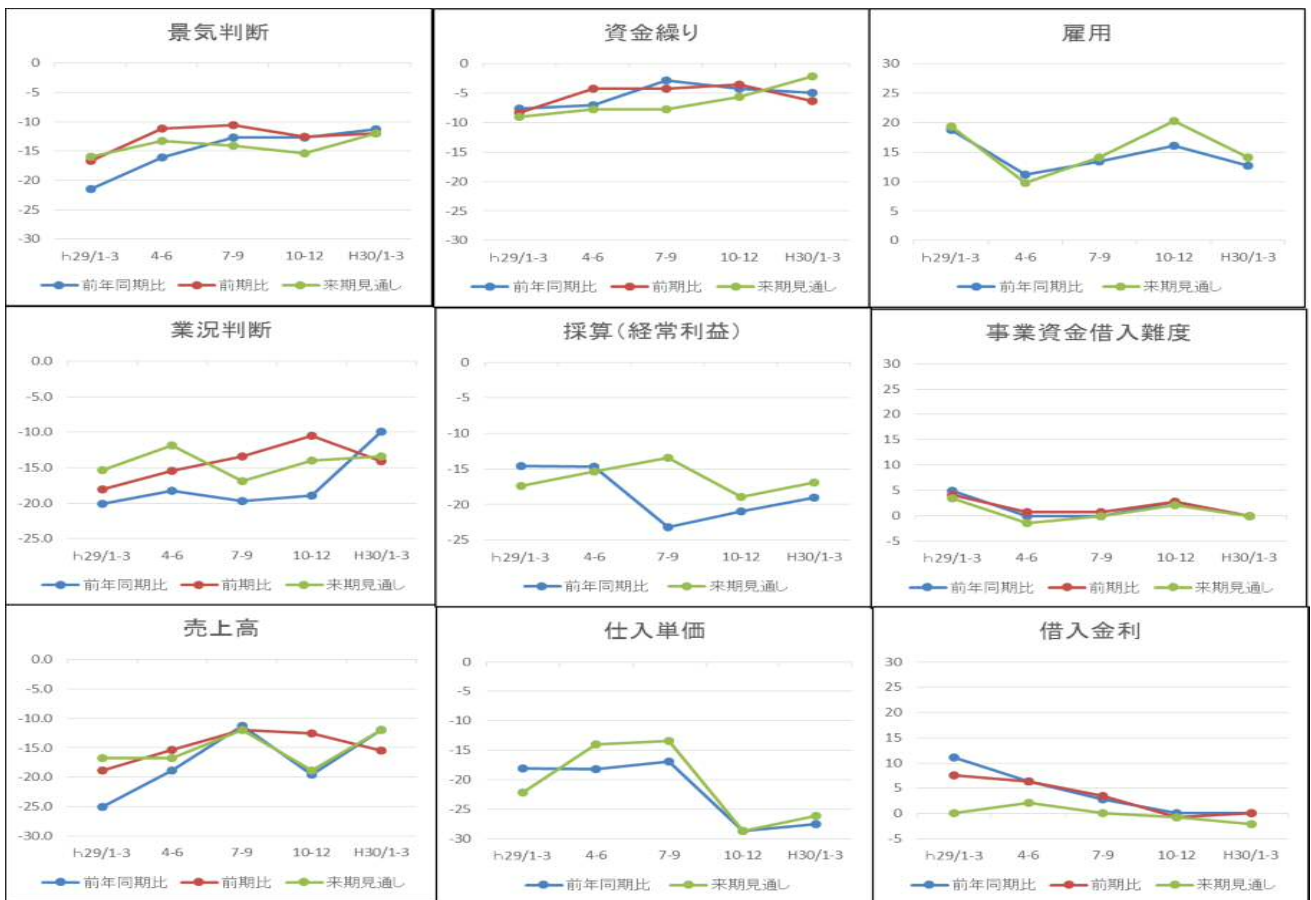
I. 概況（全業種）〈今期（平成30年1月～3月期）の概要〉

景気判断D Iは、改善 先行きは改善見込みも慎重な見方続く

景気判断D Iは前年同期比、前期比ともに改善となった。2月の寒波の影響から人出が少なかったものの、冬物衣料品の売上増や期末需要の高まりに加え、インバウンド効果も引き続き好調であった。一方、全業種で深刻化する人手不足による受注機会の損失や仕入価格や燃料代の上昇などのコスト増による利益確保難も多く見られた。

先行きについては、GW中の観光消費への期待や人手不足問題解消の期待もあり、改善の見通しであるが、仕入価格の上昇などによるコスト増、需要の停滞等の懸念材料は多く、慎重な見方が続く。

項目	前年同期比DI			前期比DI			来期(先行)見通しDI		
	比較	DI	判断	比較	DI	判断	比較	DI	判断
景気判断	↑	▲ 11.3	マイナス幅縮小	↑	▲ 12.0	マイナス幅縮小	↑	▲ 12.0	マイナス幅縮小
業況判断	↑	▲ 9.9	マイナス幅縮小	↓	▲ 14.1	マイナス幅拡大	↑	▲ 13.4	マイナス幅縮小
売上高	↑	▲ 12.0	マイナス幅縮小	↓	▲ 15.5	マイナス幅拡大	↑	▲ 12.0	マイナス幅縮小
資金繰り	↓	▲ 4.9	マイナス幅拡大	↓	▲ 6.3	マイナス幅拡大	↑	▲ 2.1	マイナス幅縮小
採算〔経常利益〕	↑	▲ 19.0	マイナス幅縮小	-	-	-	↑	▲ 16.9	マイナス幅縮小
仕入単価	↑	▲ 27.5	マイナス幅縮小	-	-	-	↑	▲ 26.1	マイナス幅縮小
雇用	↓	12.7	プラス幅縮小	-	-	-	↓	14.1	プラス幅縮小
事業資金借入難度	↓	0.0	プラス幅縮小	↓	0.0	プラス幅縮小	↓	0.0	プラス幅縮小
借入金利	→	0.0	プラス値の横ばい	↑	0.0	プラス値に転じる	↓	▲ 2.1	マイナス幅拡大



<産業別の主な動き>

産業別に見ると、今期の前年同期比景気判断DIは、製造業をはじめ4業種で改善、卸売業は横ばい、その他の業は悪化した。特徴的なコメントは以下の通り。

判定	↑	↗	→	↘	↓
前期との差	10.0以上	9.9~1.1	1.0~-1.0	-1.1~-9.9	-10.0以上
	改善	←————→			悪化

【製造業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↗	↘	→	↓	↓	↑	↗	→

- ・「求人募集をしても採用できず、休日出勤で対応しているが、生産が追いつかない。」（機械器具部品）
- ・「稼働は堅調なものの、オペレーター（運転手）不足等により需要が減少している。」（クレーン）

【建築業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↗	↗	↗	↗	↘	↑	→	↘

- ・「今期は年度末ということもあり、仕事はあるが職人がいない今の建設業を強く表している。」（板金）
- ・「若手社員の採用・育成とともに優秀な協力会社の確保が重要になってきている。」（電気工事）

【卸売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
→	↑	↗	↘	→	↑	↗	↓	↗

- ・「売上高が増加したものの、仕入単価も上昇しており、利益の確保が難しい。」（ガス）
- ・「ネット通販の勢いはすさまじい。」（衣服）

【小売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↑	↑	↘	↘	↘	↘	↘	↘

- ・「寒波の影響により冬物衣料品が好調であった。毎年行っていた新卒採用が今年はず、中途採用に力を入れている状況である。」（衣料品）
- ・「配送費のコスト増、資材の高騰等の加え、生ビールの値上げが予定されており、業界として料飲店に転嫁できるかにかかっている。」（酒類）

【サービス業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↑	↑	↘	↑	↗	↘	→	↗

- ・「海外観光客は堅調だが、海外予約サイトを介しての予約が多数であり、手数料や競合他社との価格競争を強いられているため、利益は減少傾向。」（民泊）
- ・「来期は団体旅行が減少するが、GW等の個人旅行やインバウンドの花見ツアーに期待。」（旅行）

【その他の業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	→	→

- ・「待遇改善を図り、運転手等の人材確保に努めているが、軽油単価の高騰も加わり、コスト増の影響が大きい。」（バス）
- ・「燃料代が上昇しており、利益が圧迫されている。」（貨物運送取引業）

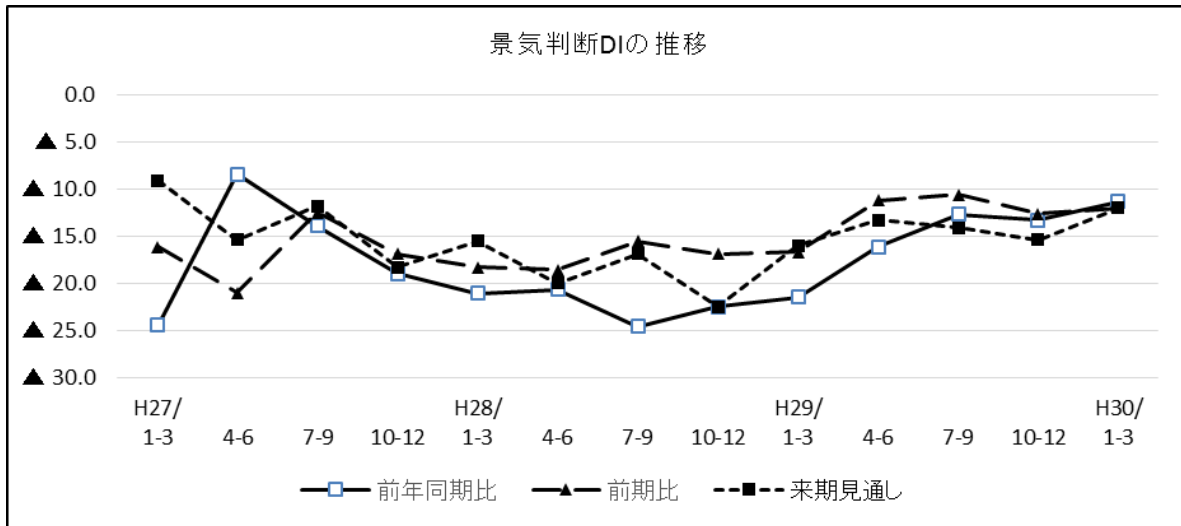
1. 〈管内景気動向〉

景気判断 景気判断DI（「上昇した企業割合」－「下降した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲11.3ポイント。前回調査（▲13.3）より2.0ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲12.0ポイント。前回調査（▲12.6）より0.6ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の景気判断DIは、▲12.0ポイント。前回調査（▲15.4）より3.4ポイントマイナス幅が縮小した。



		H27/1-3	4-6	7-9	10-12	H28/1-3	4-6	7-9	10-12	H29/1-3	4-6	7-9	10-12	H30/1-3
全業種	前年同期比	▲24.5	▲8.4	▲13.9	▲19.0	▲21.1	▲20.7	▲24.6	▲22.5	▲21.5	▲16.1	▲12.7	▲13.3	▲11.3
	前期比	▲16.1	▲21.0	▲12.5	▲16.9	▲18.3	▲18.6	▲15.5	▲16.9	▲16.7	▲11.2	▲10.6	▲12.6	▲12.0
	来期見通し	▲9.1	▲15.4	▲11.8	▲18.3	▲15.5	▲20.0	▲16.9	▲22.5	▲16.0	▲13.3	▲14.1	▲15.4	▲12.0
製造業	前年同期比	▲34.5	▲34.5	▲31.0	▲28.6	▲24.1	▲24.1	▲39.3	▲44.4	▲44.8	▲31.0	▲25.0	▲20.7	▲17.2
	前期比	▲34.5	▲34.5	▲20.7	▲21.4	▲24.1	▲27.6	▲32.1	▲29.6	▲27.6	▲20.7	▲35.7	▲17.2	▲34.5
	来期見通し	▲13.8	▲20.7	▲20.7	▲39.3	▲10.3	▲13.8	▲25.0	▲25.9	▲31.0	▲10.3	▲21.4	▲27.6	▲17.2
建設業	前年同期比	10.0	9.5	9.5	4.8	▲10.0	▲9.5	▲15.0	▲19.0	▲14.3	▲15.0	4.8	▲14.3	▲10.0
	前期比	10.0	▲14.3	▲14.3	▲14.3	▲5.0	▲9.5	▲20.0	▲19.0	▲9.5	▲25.0	▲14.3	▲19.0	▲15.0
	来期見通し	▲15.0	▲14.3	▲19.0	▲33.3	▲25.0	▲33.3	▲40.0	▲42.9	▲42.9	▲20.0	0.0	▲14.3	▲25.0
卸売業	前年同期比	▲23.1	0.0	0.0	8.3	▲30.8	▲15.4	▲23.1	▲23.1	▲15.4	0.0	▲8.3	▲15.4	▲15.4
	前期比	0.0	0.0	▲15.4	8.3	▲15.4	▲23.1	▲23.1	▲23.1	15.4	0.0	▲8.3	▲15.4	▲7.7
	来期見通し	▲15.4	0.0	7.7	25.0	▲15.4	0.0	7.7	▲15.4	▲7.7	0.0	▲16.7	▲15.4	▲15.4
小売業	前年同期比	▲48.7	0.0	▲2.5	▲25.0	▲23.7	▲30.0	▲37.5	▲32.5	▲17.9	▲20.0	▲17.5	▲12.5	▲10.0
	前期比	▲28.2	▲20.5	7.5	▲15.0	▲26.3	▲27.5	▲12.5	▲12.5	▲23.1	▲15.0	▲7.5	2.5	0.0
	来期見通し	▲10.3	▲17.9	▲7.5	▲17.5	▲15.8	▲27.5	▲17.5	▲20.0	▲15.4	▲20.0	▲17.5	▲5.0	▲12.5
サービス業	前年同期比	▲19.2	▲19.2	▲34.6	▲32.0	▲23.1	▲15.4	▲3.8	3.8	▲22.2	▲7.7	▲15.4	▲8.0	▲3.8
	前期比	▲11.5	▲26.9	▲30.8	▲32.0	▲19.2	▲3.8	0.0	▲7.7	▲29.6	▲3.8	3.8	▲20.0	▲11.5
	来期見通し	0.0	▲26.9	▲15.4	▲16.0	▲15.4	▲23.1	▲11.5	▲15.4	11.1	▲19.2	▲19.2	▲32.0	0.0
その他の業	前年同期比	0.0	6.3	▲20.0	▲18.8	▲12.5	▲18.8	▲13.3	▲6.7	0.0	▲6.7	0.0	▲6.7	▲14.3
	前期比	▲6.3	▲12.5	▲13.3	▲12.5	▲6.3	▲12.5	▲6.7	▲13.3	6.7	13.3	6.7	▲20.0	0.0
	来期見通し	0.0	6.3	▲6.7	0.0	▲12.5	▲6.3	0.0	▲13.3	▲6.7	6.7	0.0	6.7	0.0

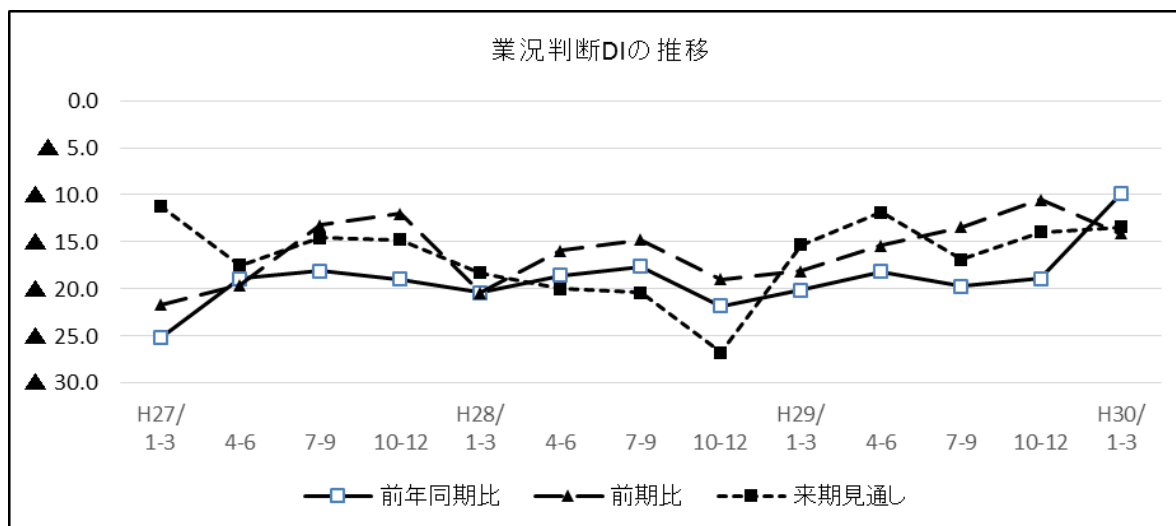
2. 〈企業経営動向〉

(1) 業況判断 業況判断D I（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲9.9ポイント。前回調査（▲18.9）より、9.0ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲14.1ポイント。前回調査（▲10.5）より、3.6ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の業況判断D Iは、▲13.4ポイント。前回調査（▲14.0）より、0.6ポイントマイナス幅が縮小した。

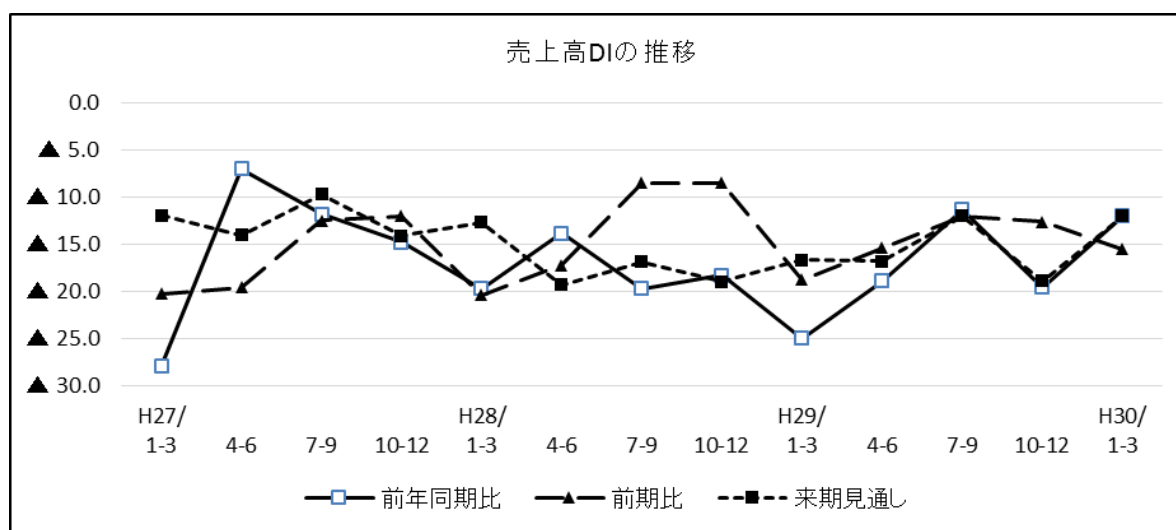


(2) 売上高〔受注額〕 売上高D I（「増加した企業割合」－「減少した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲12.0ポイント。前回調査（▲19.6）より、7.6ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲15.5ポイント。前回調査（▲12.6）より、2.9ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の売上高D Iは、▲12.0ポイント。前回調査（▲18.9）より、6.9ポイントマイナス幅が縮小した。

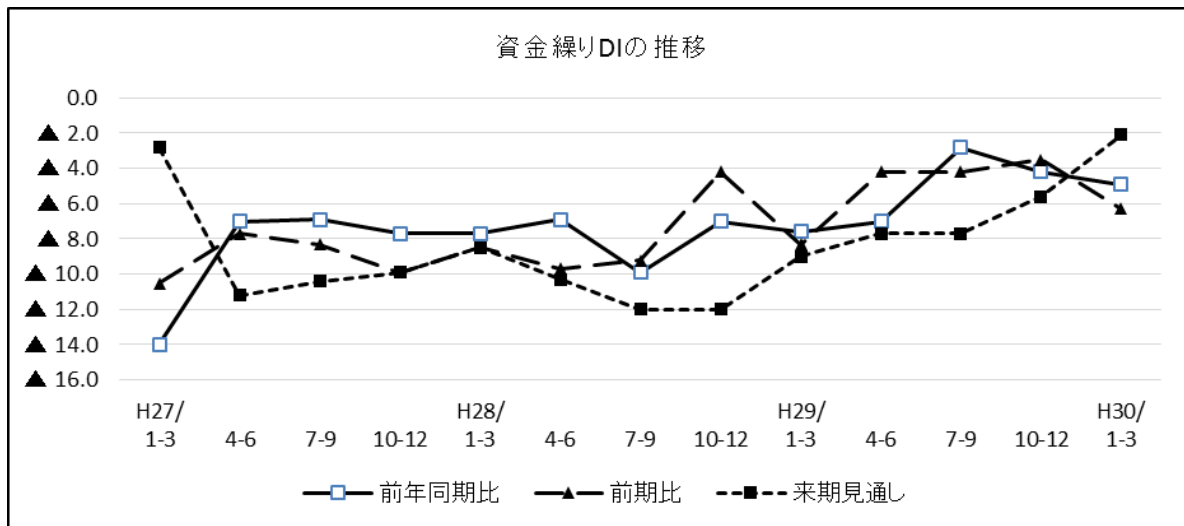


(3) 資金繰り 資金繰りD I（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の資金繰りD Iは、▲4.9ポイント。前回調査（▲4.2）より0.7ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比ベースによる全業種合計の資金繰りD Iは、▲6.3ポイント。前回調査（▲3.5）より2.8ポイントマイナス幅が拡大した。

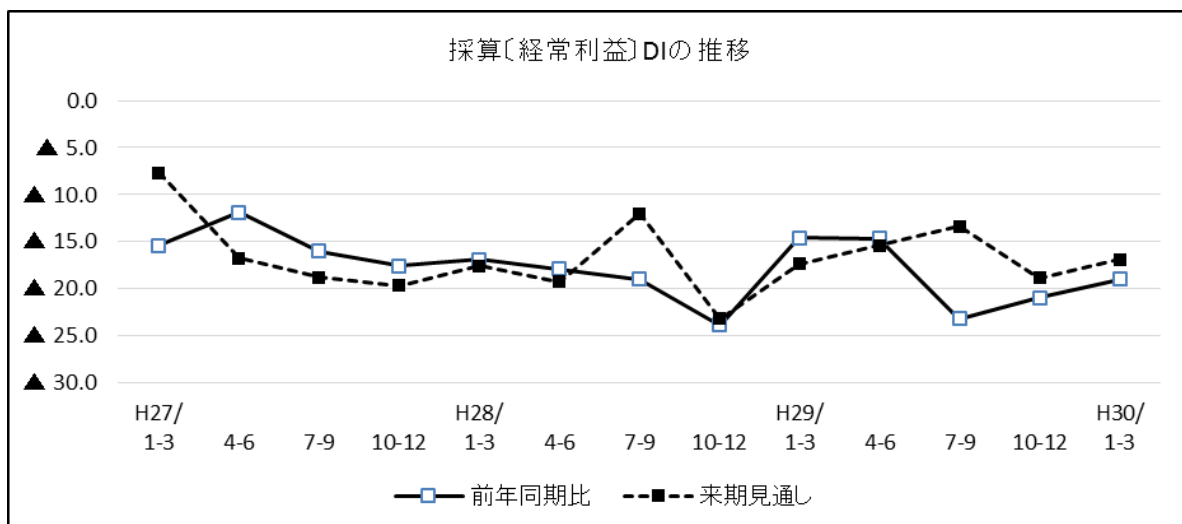
来期（先行き）見通しによる全業種合計の資金繰りD Iは▲2.1ポイント。前回調査（▲5.6）より3.5ポイントマイナス幅が縮小した。



(4) 採算〔経常利益〕 採算D I（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の採算D Iは、▲19.0ポイント。前回調査（▲21.0）より2.0ポイントマイナス幅が縮小した。

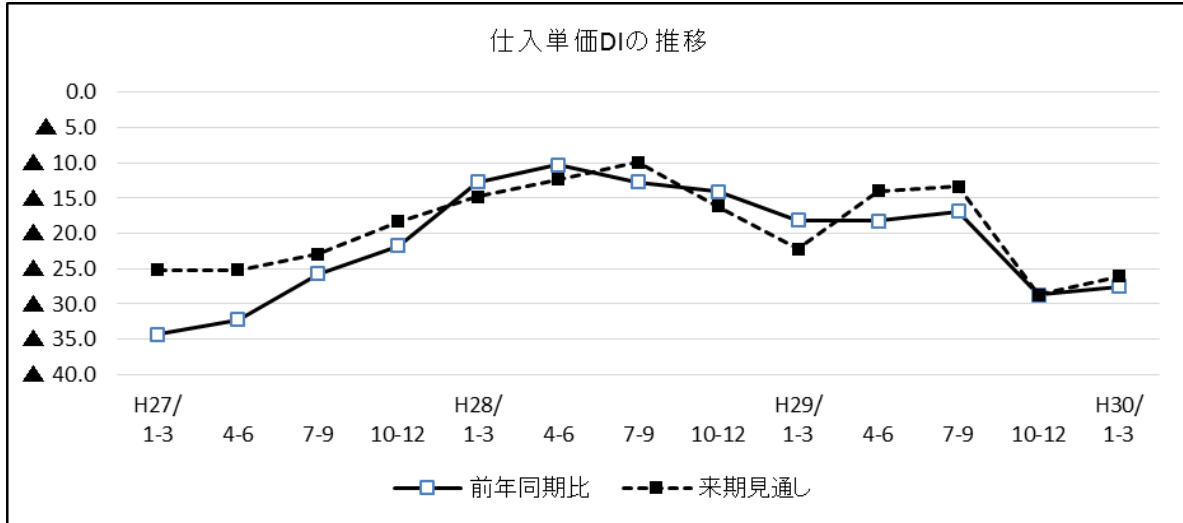
来期（先行き）見通しによる全業種合計の採算D Iは、▲16.9ポイント。前回調査（▲18.9）より2.0ポイントマイナス幅が縮小した。



(5) 仕入単価 仕入単価D I（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の仕入単価D Iは、▲27.5ポイント。前回調査（▲28.7）より1.2ポイントマイナス幅が縮小した。

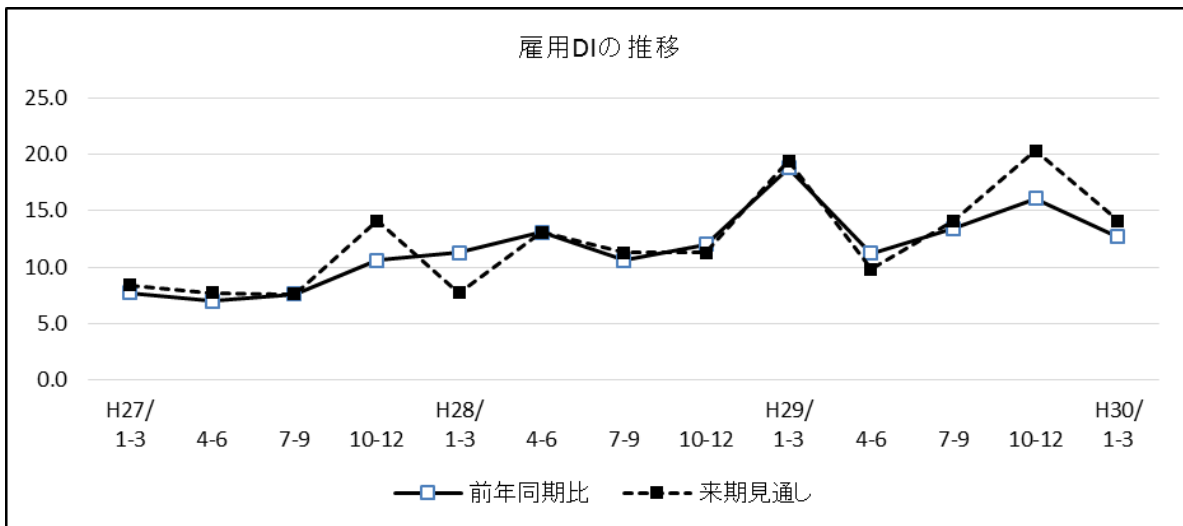
来期（先行き）見通しによる全業種合計の仕入単価D Iは、▲26.1ポイント。前回調査（▲28.7）より2.6ポイントマイナス幅が縮小した。



(6) 雇用 雇用D I（「不足気味の企業割合」－「過剰気味の企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の雇用D Iは、12.7ポイント。前回調査（16.1）より、3.4ポイントプラス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の雇用D Iは、14.1ポイント。前回調査（20.3）より、6.2ポイントプラス幅が縮小した。

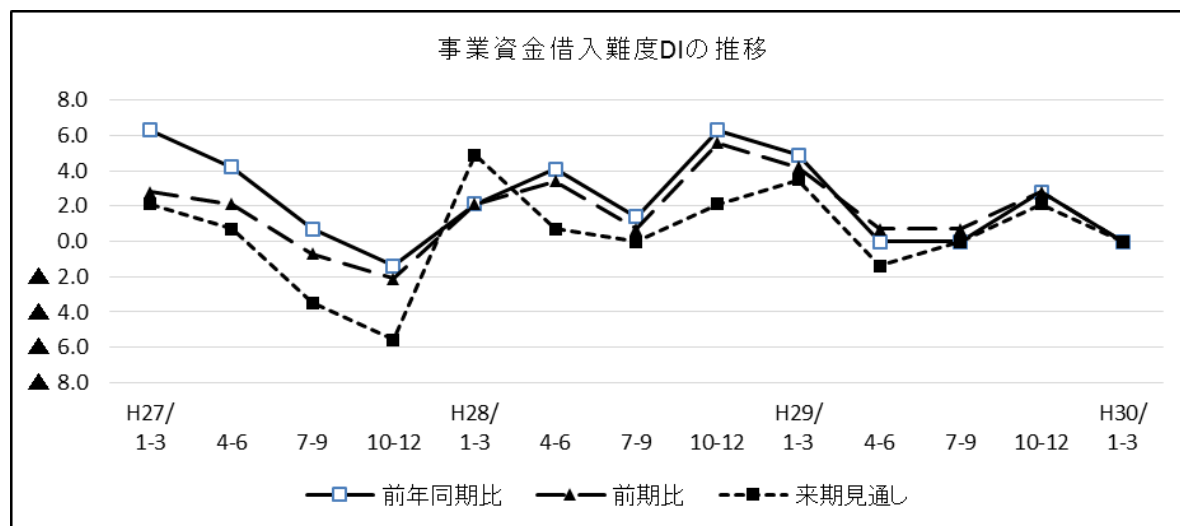


(7) 事業資金借入難度 事業資金借入難度D I（「ゆるやかな企業割合」－「きびしい企業割合」の指数）

前年同期ベースによる全業種合計の事業資金借入難度D Iは、0.0ポイント。前回調査（2.8）より2.8ポイントプラス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の事業資金借入難度D Iは、0.0ポイント。前回調査（2.8）より2.8ポイントプラス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計事業資金借入難度D Iは、0.0ポイント。前回調査（▲0.0）より2.1ポイントプラス幅が拡大した。

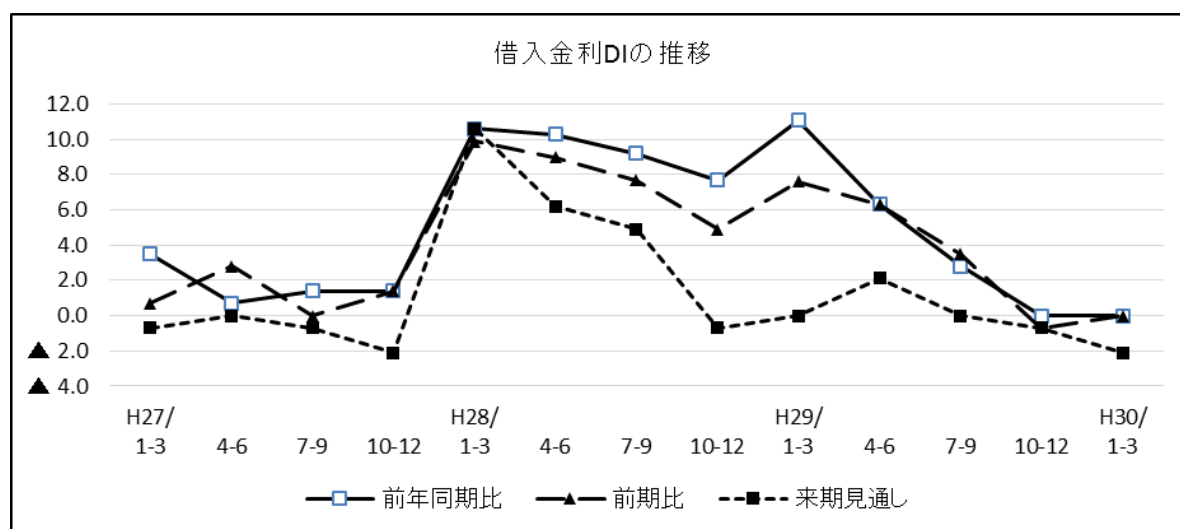


(8) 借入金利 借入金利D I（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期ベースによる全業種合計の借入金利D Iは、0.0ポイント。前回調査（0.0）より変わらず、プラス値の横ばいとなった。

前期比ベースによる全業種合計の借入金利D Iは、▲0.0ポイント。前回調査（▲0.7）より0.7ポイント改善し、プラス値に転じた。

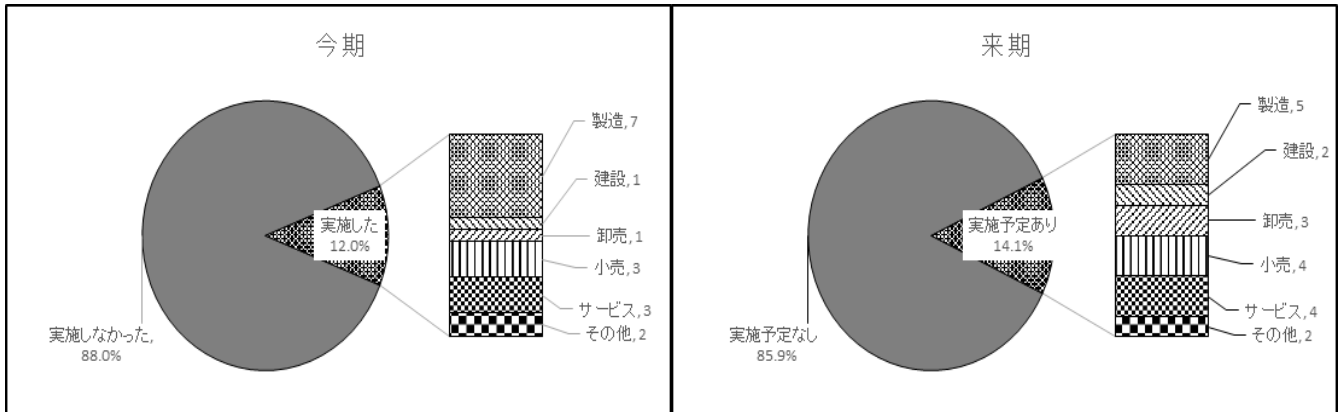
来期（先行き）見通しによる全業種合計の借入金利D Iは、▲2.1ポイント。前回調査（▲0.7）より1.4ポイント悪化し、マイナス幅が拡大した。



(9) 設備投資

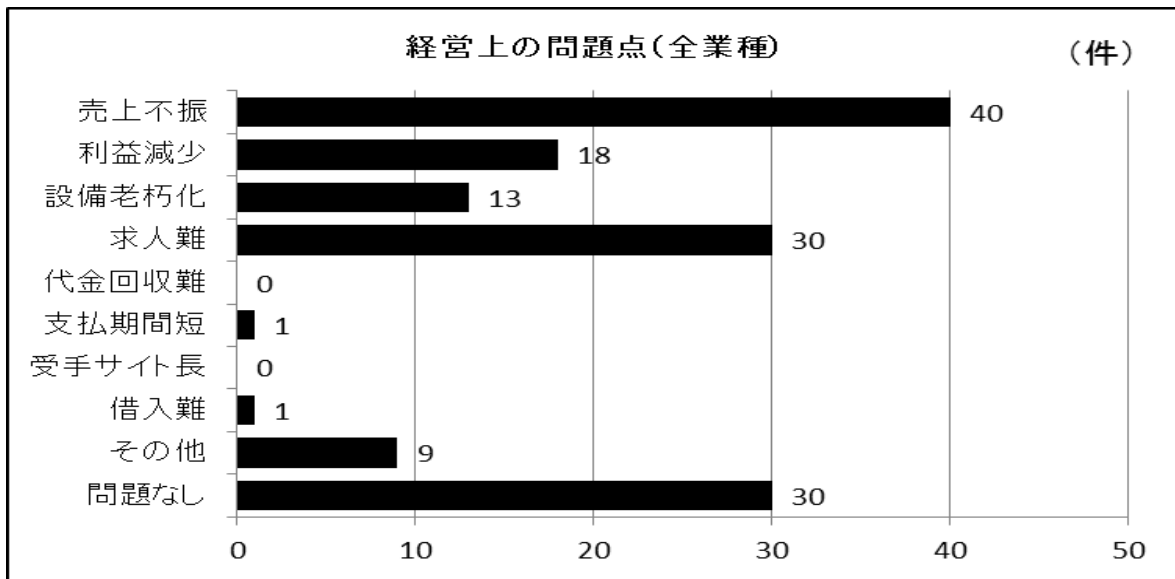
今期に設備投資を実施したと回答した企業は12.0%。前回調査(14.0%)より2.0%減少した。また、来期に設備投資計画があると回答した企業は14.1%。前回調査(18.2%)より4.1%減少した。

設備投資が多く見られた業種は、今期、来期ともに製造業であり、主に生産設備の更新や事務所・工場が挙げられている。



3. 〈経営上の問題点〉

経営上の問題点として、最も多く挙げられているのは「売上不振」で、全業種合計で40件(28.2%)となっている。次いで、「求人難」・「問題なし」が30件(21.1%)となっている。その他のとして、消費者ニーズの変化への対応や新規参入業者の増加などを挙げている。



II. 概況 (業種別) 〈今期 (平成30年1月～3月期) の概要〉

1. 各業種のコメント

(1) 製造業

- ◆ 求人を出しても人材が全く集まらず、休日出勤で対応しているが、生産が追いついていない状況が続いている。(機械器具部品)
- ◆ 3月は毎年期末需要があり、好調であるが、4月以降に関しては先行き不透明で前年比プラスとなる見通しは立てられない。(印刷)

- ◆日本では防災等により稼働は堅調なもの、オペレーター（運転手）不足等も相まって、需要は減少。海外では、一部需要の回復したもの、全体としての需要は減少傾向である。（クレーン）

（2）建設業

- ◆政府が打ち出している働き方改革は、中小企業にとってマイナスに作用している。リフォーム受注は昨年比、微増しているが、家電部門は相変わらず厳しい状況。（電気工事）
- ◆若手社員の採用・育成だけでなく、優秀な協力会社の確保にも力を注ぐことが重要になっている。（電気工事）
- ◆4月より市条例が改正され、開発許可の規制が厳しくなり、今後への影響は大きいと思われる。（汚水処理施設）
- ◆建設業全般は職人不足の状況。今期は年度末ということもあり、その傾向は強く、「仕事はあっても職人がいない」今の建設業界を鮮明に表している。（板金）

（3）卸売業

- ◆昨年同様1～2月は動きが鈍かったが、3月以降の事業に関しては問い合わせもあり、期待できる。看板業界に関しては、ローカルエリアでの事業縮小もさほど感じない。（広告資材）
- ◆売上高が増加したものの、仕入単価も上昇しており、利益の確保が難しい。（ガス）
- ◆ネット通販の勢いは衰えず、利益は減少傾向。企業向けの営業に力を入れている。（衣服）

（4）小売業

- ◆例年のクリアランスセールを前倒し開催し、月前半は好調に推移するも月半ば以降は寒波の影響もあり、苦戦。高額品の計上に助けられた。（百貨店）
- ◆寒波の影響もあり、冬物衣料品は順調であった一方、春物の立ち上がりが遅れている。新卒採用を毎年行ってきたが、今年は採用できなかったため、中途採用に力を入れている状況。（衣料品）
- ◆平昌オリンピックでのテレビの買い替え需要に期待していたが期待外れであった。総体的に消費需要は低迷している。（業界団体）
- ◆配送費のコスト増、資材の高騰等厳しい状況の中、生ビールの価格の値上げが来期にあり、業界としては料飲店に対して価格転嫁できるかにかかっている。（酒類）
- ◆インバウンド需要が引き続き好調であるが、人手不足も同様に続いている。（うどん）

（5）サービス業

- ◆来期は団体旅行客が減少するが、春休み、GWにかけて個人旅行が活発化するシーズンに加え、インバウンドは桜の花見ツアーの時期となるため期待。（旅行）
- ◆海外観光客の宿泊は安定しているものの、海外予約サイトを介しての予約が多数を占め、手数料の支払増加や競合他社との価格競争を強いられており、利益率は減少傾向。ゲストハウスの増加に伴い、顧客ニーズが多様化されるため、今後は差別化が求められる。（民泊）
- ◆製造業の大きな変化に伴い、設備投資が増加している。AI、IoTに対する過度な期待から現実的な仕組み、運用へと顧客の要望も変化している。（ソフト開発）

（6）その他の業

- ◆運転手不足と貸切需要の減少による売上減少は依然として続いており、燃料費の増加も止まらず採算が悪化している。（タクシー）
- ◆運転手不足の中、正規雇用、契約社員の退職金制度等の待遇改善を図り、人材確保に努めているが、軽油単価の高騰傾向も加わり、コスト増が収支に影響を与えている。（バス）
- ◆燃料代が上昇しており、利益が圧迫されている。（貨物運送取扱業）

2. 当所管内業種別景況天気図（平成30年1月～3月期）

業種別	景気判断			業況判断			売上高			資金繰り			採算	
	H29 1月～3月期		H29 4月 5 6月 期	H29 1月～3月期		H29 4月 5 6月 期	H29 1月～3月期		H29 4月 5 6月 期	H29 1月～3月期		H29 4月 5 6月 期	H29 1月～3月 期	
	前 年 同 月 比	前 期 比	見 通 し	前 年 同 月 比	前 期 比	見 通 し	前 年 同 月 比	前 期 比	見 通 し	前 年 同 月 比	前 期 比	見 通 し	前 年 同 月 比	見 通 し
全業種														
製造業														
建設業														
卸売業														
小売業														
サービス業														
その他の業														

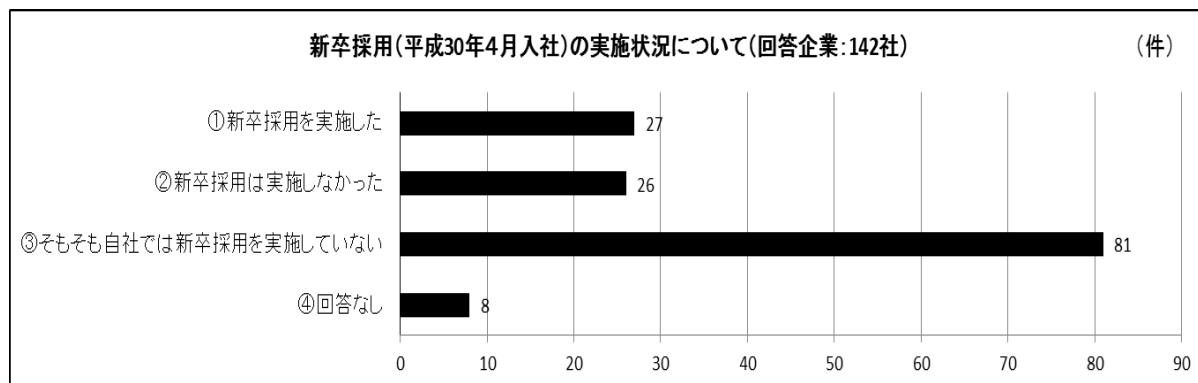
凡例					
	特に好転	好転	不変	悪化	特に悪化
DI値水準	>= +25.0	+24.9～+10.0	+9.9～-9.9	-10.0～-24.9	<= -25.0

<付帯調査>

人手不足が続くなか、新卒採用に力を入れ、人材の確保につなげたいとの声が、全国の多くの企業から聞かれることから関連して、以下2点について付帯調査を行った。

1. 新卒採用（平成30年4月入社）の実施状況について

最も多く挙げられているのは「そもそも自社では新卒採用を実施していない」であり、全業種で81件（57.0%）であった。



2. 採用計画に対する新卒採用の充足状況について

(質問1で選択肢1「新卒採用を実施した」と回答した方のみ回答)

質問1で「新卒採用を実施した」と回答した27社に採用計画に対する新卒採用の充足状況について調査した結果、最も多く挙げられているのは「採用できたが、計画した人数には満たなかった」であり、全業種で12件（44.4%）であった。

